

### ちょっと大人の交流会

ちょっと大人の交流会が開催  
第1回目は大盛況!

3月5日(土)夕方、レジデンス・ザ・武蔵小杉で、「ちょっと大人の交流会」が開催されました。これは、小杉にお住まいの日頃忙しいビジネスパーソンのみなさん同士、地元の小杉での交流が目的です。



ちょっと大人の交流会の風景

第1回目は、「武蔵小杉ライフ」のライター・はつしも氏をゲストに迎えてのトークショーでした。

総勢60名のみなさんを前に、はつしも氏から「武蔵小杉ライフ」の歴史や苦労話をしていただきました。「武蔵小杉ライフ」のブログは小杉に住む近隣の人たちばかりではなく、小杉エリアのマンション住まいを検討されている多くの方々にも読まれています。会場からはいくつも質問が飛び、またそのあとに開かれた懇親会も大いに盛会となりました。

### ちょっと小さな交流会

3月の交流会は今後の企画をみなさんで話し合っ、提案したりグループ分けをしたりしました。たくさんの意見やアイデアも提案されました。

4月のちょっと小さな交流会は「災害時の心構えや備えについてお話をしませんか」です。先日発生した未曾有の大震災により、今あらためて防災に対する備えや日頃のご近所付き合いの重要性が高まっています。これを機会に、いざという時の備え、安否確認、体調管理、防災ずきん、簡易オムツの作り方などについて、ご近所さんとお話ししながら学びあいましょう。

日時：4月8日(金) 13:30~リエトプラザII (地震の為、企画内容を変更しました)

### 大そうじ大会

エリマネでは市民の手による街づくり活動の一環として、大そうじ大会を開催することになりました。この大そうじ大会は、残念ながら過去数回雨、雪や地震で中止となってしまいました。地域の美化とご近所さんとの親睦、そして多少のエクササイズの為、この大そうじ大会の活動を継続します。

4月度の「大そうじ大会」は4月9日(土)です。大そうじへの参加は近隣の方と知り合いになる機会にもなります。家族のみなさんと一緒に、またご近所のお友達と一緒にお気軽にご参加ください。

日時：4月9日(土)8:00に集合後スタート  
集合：NPO小杉駅周辺エリアマネジメント事務所前  
持ち物：ほうき、ちりとり、トングなど  
ご参加は多少汚れても良い普段着の服装で。



清掃活動の様子

### 震災・その時その後 第1回「14時46分からの長い1日」

東北関東大震災は、小杉再開発地区にとっても対岸の火事ではすまされない。これから6回にわたり再開発地域の安心安全への取り組みを紹介する。第1回目は、震災当日のエリマネとレジデンス・ザ・武蔵小杉の動きを追った。(文/中丸育穂)

\* \* \*

毎月第2金曜日、エリマネでは、「ちょっと小さな交流会」というトークサロンが開かれる。このイベントは高層マンションに引きこもりがちな高齢者、新興住宅地で知り合いのいない人向けなどに、おしゃべりを通じて気軽に「交流できる」サロンの催しだ。

午後3時近く、司会のスタッフがいつものように最後の挨拶にはいりかけたときだった。ぐらっと足元が揺れた。電灯がぼさっと消えた。揺れは大きく長い。スタッフがドアを開放するために入り口に駆け寄った。別のスタッフは、そのとき高層マンションが揺れるのを見て、「折れるんじゃないか」と思ったという。



震災を知らせる新聞

そのうち、エリマネ事務局のまえに人びとが続々と集まりはじめた。「100人以上はいたと思います。停電でマンションのエントランスは真っ暗だし、余震が怖くて自宅にいられないという方もいました」と司会スタッフの1人は語った。

余震がつづくなか、エリマネのフリースペースにも人が自然と集まってきた。子ども連れ、体調が悪くなった人、ペット連れ、妊婦、家族と連絡がつかない中高生たち。フリースペースには最大60人はいったようだ。やがて、日が落ちる。エリマネ事務局自体も周辺も真っ暗になっている。幸いにして水とトイレは使えた。しかしエリマネ自体の電気は止まっていて、暖房もない。

たまたま交流会に出席していたレジデンス・ザ・武蔵小杉の住民が本震後レジデンスを確認した。するとエレベータを除いたインフラがほぼ問題なし(エレベータもその後18:30ごろに全面復旧)と解った。そしてマンションのコミュニティ委員と相談し、エリマネに避難している人たちを、レジデンス・ザ・武蔵小杉に招き入れた。

「ふと見渡すと、再開発地区周辺のマンションでは、レジデンスだけが明かりがついているんですよ。これはエリマネにいる人たちを呼ぶべきだと、仲間と話したんです」レジデンス・ザ・武蔵小杉に移動した人たちは最大で100人近い。ペット連れもいる。そして、JR武蔵小杉駅で降ろされた、小杉地区とは関係ない人たちも含まれていた。いわゆる帰宅困難者だ。レジデンスではただちにボランティアを募り、緊急避難所が設けられた。温かいコーヒーと、ちょっとしたお菓子が用意された。

夜が更けて行くにつれて、周辺マンションの電気が復旧していった。日付が変わったころ、最後のステーションフォレストタワーのエレベータが復旧した。それが本震以降、レジデンス・ザ・武蔵小杉の一区切りとなった。それでも、帰宅困難者の10名はそのまま翌朝までその場にとどまり、すべての人が帰宅したのは昼前だった。

### こども探検隊

3月の探検隊は震災の為中止となりました。

4月のこども探検隊はとどろき水辺の学校に企画してのイベントです。その為今回は4月29日(祝日)の開催です。内容は「野草観察と川の生き物調べ」で場所は多摩川等々力緑地の河川敷です。

日時：4月29日(金・祝) 9時に集合 (詳細はチラシやホームページ参照)

集合場所：JR南武線北口広場集合 (NPOエリマネの旗が目印)

参加費：200円 (保険代など)

持ち物：川に入る服装、もしあれば手網、着替え、タオル、帽子、水筒、コップ、皿、お椀等

昼食：炊き込みご飯、わかめ味噌汁+野草天ぷら付き

服装：ぬれてもよい長袖服、長ズボン、水の中に入れる靴



活動の様子

### 中原街道30

昭和四十六年に発行された「中原街道小杉から久末までをたずねて」を参考とした歴史研究を基礎に掲載しています

#### 小泉次大夫

と田中休愚

田中休愚は、武蔵の国多摩郡平沢村(現在の東京都秋川市)に生まれ、絹の行商でしばしば川崎を訪れるうちに、当時の川崎宿の本陣を努める田中兵庫(三代目)の養子になり、六郷川の渡船権を獲得、その収入で川崎宿の復興と繁栄をもたらした。さらには、自らの経験をもとにまとめた幕府の民政に対する意見書である『民間省要』が八代將軍吉宗の認めるところとなり、多摩川、酒匂川(さかわがわ)の改修に

あわせて、「二ヶ領用水の改修」の命を受けた。

休愚は、享保九(一七二四)年に、荒れ果てていた二ヶ領用水の改修に着手する。宿河原取入れ口を改修し、また総延長約三二キロメートルにわたる二ヶ領用水全体の「大ざらい」を行なっ

て、用水の姿を元よみがえらせた。享保一四(一七二九)年、三万石の

代官に抜擢されたが、惜くも、五ヶ月後に江戸・浜町で没した。(一六六二~一七二九)



田中休愚



小泉次太夫